

松井知事と吉村市長は、
カジノとセットで万博を
大阪・夢洲に誘致する
と言います

万博テーマ

「いのち輝く
未来社会」に

カジノ問題を考える
大阪ネットワーク

大阪市北区西天満4丁目5-5
マーキス梅田301号 大阪いちょうの会気付
TEL06-6361-0546 FAX06-6361-6339

賭博場はいらない!

2016年11月、吉村市長は「万博とともにカジノを中核とした統合型リゾート(IR)のために(夢洲の)整備を検討する」と発言。万博を口実にカジノを誘致し、大型開発をするのが狙いです。

あめかん! カジノ

ゴミと土砂で埋め立てた
夢洲はキケンです!

南海トラフ巨大地震が起こるのは必至と言われ、夢洲はまともに被災する場所です。地震が起きれば、津波に飲み込まれ、護岸は、液状化で崩壊。ライフラインが機能停止、石油コンビナートの津波火災などで夢洲は長期間孤立。こんなところにリゾート施設をつくり、多数の人を招き入れてよいのでしょうか。また、夢洲はごみの埋立地で地盤が脆弱。巨大な建造物を建てるのは無謀だと専門家も指摘します。

他人様から
まき上げた金で
景気よくするという
考えがあかんがな



目的は
市民の税金で
ムダな
巨大開発

夢洲にカジノ万博を誘致するのは、鉄道や高速道路、橋などを作る巨大開発が狙いです。その費用は5千億円! そんなところに税金を使わず、維新政治によって潰された市民病院や保育所、市民の足を守る福祉バスなどのために使ってほしいものです。

私は1日の大半を
パチンコをする親の隣で…

私の母がギャンブル依存症で、私はパチンコ店で育ちました。母は始終お金の問題を起こし、父親も無関心で、機能不全の家庭でした。大人になって依存症の自助グループに出会い、ギャンブル依存症は回復可能な病であると知りました。どんな子どもたちにも私と同じような苦しみを味あわせたくありません。(Kさん)

大学に通わず
パチンコ店に入りびたり

学生生活を始めたころ、遊び感覚で行ったパチンコにはまり、借金をし、それをパチンコで取り返そうとする生活になりました。とうとう大学も除籍され、すべてのことから逃れたいと失踪しました。親に見つかり病院に連れていかれ、ギャンブル依存症と診断され入院しました。今は被害者の会、自助グループで依存症からの回復をめざしています。

(Tさん・20代)

ギャンブル依存症536万人。

※国民の20人に1人がギャンブル依存症

その家族も人生を壊されている。

子どもも泣かす

カジノはいらん

ギャンブル依存症患者の周りで苦しむ家族はその何倍にも上ります。特に子どもたちに与える影響はひどく、悲惨な家庭環境でまともな教育を受けることすらできないケースが多々あります。依存症を生み出さないための最も有効な対策は、ギャンブル場をつくらないことです。

世界に誇る大阪のええとこ

海外の観光客の
目的ベスト8

- 1 日本食を食べる
- 2 ショッピング
- 3 自然・景観地
- 4 繁華街
- 5 温泉
- 6 旅館宿泊
- 7 日本酒
- 8 伝統文化

(2015年
観光庁調べ)



観光客の目的は
カジノやないよ

カジノの利益で
ギャンブル依存症
対策します

そんな
アホな



“人の不幸が
儲けのタネ”の
カジノに自治体が
手を貸すのは
間違いです

